

らやるのではなく、自分たちでやっていく、そのためには集団性、組織が必要である。

そこで私は、長期計画委員会に提案したい、それぞれの機関で長期計画委員会を組織してもらいたい、それを取りまとめて総会に報告する。それが窪田さんのいわれたアフター・ケアになるだろう。

大井（大阪教大）：もう少し自由討論の時間を保障してほしかった。最初にシンポジウムのすすめ方について説明があるべきだった。

日常的な問題だが、高層観測がふえずデータが不足である。臨時観測網をつくるための会議をもち、部外の者にも参加できるようにしてほしい。

くりかえしているが、もう少しデモクラティックにやるべきだ。

最後に“気象研究ノート”編集委員会から川村清氏が、“70年代の気象学”特集号の原稿募集（“天気”1970年8月号に掲載）のよびかけがあり、閉会した。

気象研究ノート発行予告と予約の 募集、その他について

気象研究ノート編集委員会

気象研究ノート第106号は浅井富雄氏のL.N. Gutmanによる「メソ気象学的過程の非線型理論序説」でした（「天気」17巻11号参照）が、これをさきに募集した「70年代の気象学のあり方」の特集号にかえ、前者は第107号とします。

（1）第106号は執筆者約55名で71年2月発行予定。

（2）第107号の内容目次は下記の通りで、71年3月発行予定。

はしがき

第1章：メソ気象過程の熱流体力学方程式

第2章：大地の起伏の気流におよぼす影響

第3章：前線

第4章：テルミック

第5章：積雲

第6章：竜巻とトルネド

第7章：局地風

（3）第108号は「環境汚染」の特集号の予定。内容目次は下記の通りで、71年4～5月発行。

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 緒論 | 三宅 泰雄 |
| 2. 大気大循環 | 交渉中 |
| 3. 成層圏の汚染 | 小野 晃 |
| 4. 対流圏の汚染 | 川村 清 |
| 5. 海洋の汚染 | 杉浦 吉雄 |
| 6. 人工放射能による大気汚染 | 葛城 幸雄 |
| 7. 放射観測による大気汚染の現状 | 藤本 文彦 |
| 8. 都市の大気汚染 | 大喜多敏一 |
| 9. 都市汚染に対する大気拡散の研究の現状 | 伊藤 昭三 |
| 10. 大気汚染の気候への影響 | 根本 順吉 |

上記各号は100～150ページのもので、価格は400～500円程度（非会員の場合は3割増）。定期購読者以外で、特別に購入を希望される方は、印刷部数を確認する上に必要ですので、「天気本号」に添付のハガキで学会事務局に至急お申し込み下さい。

学校、官署などで、まとめて購入される場合も同様な要領でご連絡下さい。